

上 田
勉

武士や商人の歴史を受け継ぐ 会津田島祇園祭

7月22日・23日、私は、会津田島祇園祭の花嫁行列を見るために、南会津町へ行きました。会津若松駅から会津鉄道に乗って約1時間10分、会津田島駅に着きました。駅を出ると多くの露店が並んでいて、多くの人が食べたり飲んだりしながら歩いています。子供たちは大喜びで、手に手に何かを持って歩いています。

1日目は屋台歌舞伎です。4台の屋台の上で、小学生や中学生の子供たちが、歌舞伎を上演します。子供たちは歌舞伎の内容について理解しているのかどうか分かりませんが、ほとんどセリフを間違えません。1年かけて練習してきたのでは、と思います。1幕を演じると、次の店の前に屋台は移動します。子供たちは「オンサンヤレカケロ」と掛け声をします。小さな子供たちも屋台に乗って、一緒に移動します。私は、子供たちが演じる屋台歌舞伎に魅入られました。

2日目は、お目当ての七行器(ななほかい)行列です。酒樽・サバ・赤飯などを神前に奉納する行事です。花嫁たちの行列が国道を通過して、田出宇賀神社まで行進します。花嫁行列に応募した花嫁たちは、縁結びなど、どのような気持ちで応募したのでしょうか、興味がわきます。祭のハイライトです。「会津田島祇園祭は、古くより『西の祇園社、中の津島社、東の田出宇賀社』と言われ、日本三大祇園祭の一つと称し伝えられている。800年以上の伝統を誇る。古くから厄除消除・稼業繁盛・縁結びなど縁起の良い祭として知られる。」「会津田島祇園祭は、お党屋制度とよばれる現在9組の当番お党屋組が、1年間党本の家を支えて祭事を担当する制度によって運営されています。この820余年の伝統が、昭和56年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。」(南会津町HP)。

なぜ、こんな所(失礼)に祇園祭が今も残っているのか、と思いました。「田島町は、鎌倉時代に長沼氏により嶋山城が築かれ、また、江戸時代には、会津西街道の宿場町として、南会津地方の中心地としての役割を担ってきました。現在でも、医療機関、国、県の行政機関がおかれています。田島町は昭和30年4月、旧田島町、松沢村(ひさわむら)、荒海村(あらかいむら)の1町2村が合併しました。」(南会津町HP)。昔からの城下町で宿場町だったみたいです。武士や商人の財力によって、この街は栄えたのです。また、南会津は、鬼怒川や日光を通過して、東京とも繋がっています。

鉄道と並行して国道121号が通っています。この辺りが町の中心です。古い街並みで、江戸時代や明治時代の宿場町の面影が残っています。昔からの商店や旅館があります。本屋もあります。国道は拡幅されないで、両側に歩道があります。もしも、小池東京都知事が南会津町の町長になっていたら(なるわけないが)、神宮外苑の再開発のように、この国道でも、木を伐採して(この国道には街路樹はなし)、古い建物を壊して、国道を拡幅して、不動産会社と一緒に高層ビルを建てて、庶民が住めない街になっただろうと思いま

す。古い町並みや建物は、絶対に残すべきです。



【花嫁行列が目的だったが一会津田島祇園祭】（2023年7月23日撮影）



【子供達の屋台歌舞伎に魅せられた一会津田島祇園祭】（2023年7月22日撮影）